

今日のテーマ「低学年の体育指導のポイントあれこれ」 実技研修

1. 魅力ある体育学習にするための4条件

- | | | |
|--------------|-------------------|---------|
| ①魅力ある環境がある。 | 「おもしろそうだ、やってみたいな」 | 目がキラキラ |
| ②自分の発想が生かせる。 | 「これならボクにもできそうだ」 | 心がワクワク |
| ③仲間と一緒にできる。 | 「一緒にできて楽しそう」 | 仲間とルンルン |
| ④時間が十分にある。 | 「思う存分できるぞ」 | 力がグングン |

2. たかが集合、されど集合。

- ・集合がうまくできるクラスは、なんでもうまくできるもの。
→集合は子どもの心も一つにしていく（連帯感）
- ・集合は「並べるより、かためろ」が原則（80度を集める）
→集合した時、先生と子どもの距離は、出来るだけ近い方がいい
- ・集合の合図は、笛？ それともタンブリン？・・・。
ジャラジャラ パン → 動きを止めて先生に注目
ジャラジャラ パンパン → 先生の所へすばやく集合
- ・低学年では、「集合回数は多く、でも話は短く」 がコツ。

3. 指導のポイントあれこれ

- ・どの子も入口が見つけられる環境の工夫。 忍者ごっこ くものすらんど
- ・一つの技を単発にするのではなく、いろいろな動きを連続してやらせていく。連続運動。
- ・前転をきれいにするより、回転感覚を育てることが重要。きれいに1回転より、きたなくても3回転の方がいい。
- ・どの子も発想が生かせる助言の工夫。 目がクルクルする動きを考えよう 息がハァーハァーする動きを考えよう ドキドキヒヤッとする動きを考えよう
- ・動きを広げるためには、友だちの動きの紹介し刺激をあたえる。まねっこ遊び
- ・動きに偏りがないように助言をあたえる。3回続けてごらん 左足でもできるかな
- ・見本は上手な子ではなく、下手でも頑張っている子の姿を見せる。
- ・体育は仲間づくりの絶好の機会。 グループ活動の場を生かす。 3人組活動
- ・準備と後片付けは、大切な学習である。必ず自分たちでさせる
- ・順番を待つ時間が少なくなる工夫をする。場の設定の工夫やボールは一人一個は当たり前。
- ・教師は一人ひとりの記録をとる。 タンブリンの裏に用紙をつける。

4. 低学年の体育指導の落とし穴 （生活科や総合にも共通する落とし穴が・・・）

- ・「楽しくやっていたら自然に力がついていた」そんな体育学習を目指したい。
しかし、子どもが楽しそうにやっているだけで満足してはダメ。力をつけなくては何にもならない。だから巡回指導を繰り返して、子どもに刺激を与えるのだ。連続で回れるかな？反対回りはできるかな？このリズムはどう？あの子の動きの真似はできるかな？次はどんなことに挑戦するの？ 等々 動きを広げる助言を必ずする。
「みんな楽しそう」と全体的に見ていると個を見落としてしまう。「あの子」「この子」をしっかりと見る目を養うことが大切。 記録をとること。